

簿記論の本試験は第一問及び第二問が30分問題、第三問が60分問題となっており、本試験で合格を勝ち取るためには、基本的な会計処理や計算パターンを確実に身に付ける必要があります。

また、第三問の総合問題では、基本的な知識に加えて、集計力や全体を見渡す理解力も重要になります。

総合計算問題集応用編は、30分問題、または60分問題で構成されていますが、組み合わせることにより簿記論の本試験と同じく2時間問題としてご利用頂けます。ボリュームの多い問題や難易度の高い問題が収録されていますが、各問題の中には容易に解答できる箇所も含まれています。本試験で合格するためには、容易に解答できる箇所を確実に得点に結びつけることが必要不可欠です。各問題のランクに応じて目標点数が設定されていますので、時間内で目標点数に到達できるよう、取捨選択の意識も持つようにして下さい。そして、この問題集に収録された問題を繰り返し解答することにより、総合問題を解答する際の集計力や理解力といった応用力を身に付けて頂くとともに、基本的な知識の再確認及び取捨選択の感覚を養って頂ければと存じます。

本書での問題演習を通じて、総合問題の得点力を高めて頂き、受験生の皆様が「合格」という二文字を勝ちとることを心から念願してやみません。

なお、本書は2026年5月1日現在の施行法令に基づいて作成しております。ただし、リースに関する会計処理については企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」に基づいて作成しております。

資格の大原 税理士講座

Subject. I

税理士試験の合格に必要な基礎項目が充実

本書の問題は、過去の試験傾向及び出題実績を徹底分析することにより、学習の進度に応じた税理士試験の合格に必要な応用項目を中心に出题がされています。また、本試験とほぼ同等の形式となっていますので、総合問題形式ならではの解答手順、解答方法を確立することができます。

この問題集の学習項目を習得することにより合格に必要な知識をマスターすることができます。

本試験同様の総合問題形式

甲株式会社(以下「当社」という。)の【資料1】前期末(X4年3月31日)の残高勘定、【資料2】当期(自X4年4月1日至X5年3月31日)の営業取引及び決算整理事項等、【資料3】当期末の損益勘定及び残高勘定は次のとおりである。これらの資料に基づいて、以下の設問に答えなさい。なお、問題文中に与えられている資料以外は考慮する必要はない。

また、資料の()に該当する勘定科目及び金額は各自推定しなさい。

設問1. 下記の【資料1】における前期末の残高勘定の ~ に適当な金額を答案用紙の所定の解答欄に記入しなさい。

設問2. 当期首に行う開始手続に必要な仕訳の借方又は貸方合計金額を答案用紙の所定の解答欄に記入しなさい。なお、当社は準大陸式決算法を採用している。

設問3. 下記の【資料2】における営業取引及び決算整理事項等の ~ に適当な金額又は個数を答案用紙の所定の解答欄に記入しなさい。

設問4. 決算整理後残高試算表の繰越利益剰余金勘定の金額及び決算整理後残高試算表の借方又は貸方合計金額を答案用紙の所定の解答欄に記入しなさい。

設問5. 下記の【資料3】における当期末の損益勘定及び残高勘定の ~ に適

答案用紙も本試験と同じ形式
本番同様の練習が可能！

Subject.2

時間・得点を意識した練習が可能

本書の問題には制限時間が付されていますので、本試験と同様に解答時間を意識した演習を行うことができます。また、模範解答、採点基準及び解説が付されていますので、自己採点により、自己の学習状況を分析し、弱点の把握・強化をすることができます。

問題 1

難易度 / B
標準時間 : 30分

解答後は自己採点を！

解答時間を意識して解答しよう！

■解答■

設問 1.

① ★ 12,754 千円① ② ☆ 12,160 千円①

③ 125 千円②

設問 2.

75,791 千円①

設問 3.

A 240 千円② B 680 個②

C 8,100 千円②

●解説●

仕訳の単位は千円とする。

1. 開始手続

(1) 開始仕訳(準大陸式)

(現金預金)	12,754	(支払手形)	4,320
(受取手形)	5,840	(買掛金)	9,600
(売掛金)	12,160	(未払販売費)	187
(繰越商品)	9,600	(貸倒引当金)	342

間違ってしまった箇所は解説で確認！

Subject.3

総合問題を解答する際に必要な解き方のテクニックを掲載

総合問題の解き方

1. 総合問題とは

総合問題とは、個別問題のように仕訳、勘定口座への転記等、これらの手続きの簿記技術を単独で試すのではなく、一つの問題にいくつかの論点を組込むことにより文字通り簿記技術の総合力を試す問題が総合問題である。

また、総合問題の特徴として、必要な資料が至る所に散らばっていることが挙げられる。これにより集計漏れ等のミスが生じてくる。そのため、問題の前提及び与えられている資料を確認する素読みやその他総合問題独特の技術がしっかりと把握できているか確認を行ってください。

2. 解答手順

(1) 素読み → (2) 解答優先順位 → (3) メモ書き → (4) 答案用紙に転記

合格に必要なテクニックもバッチリ！

Subject.4

総合問題の難易度に応じてランクを明示

ボリューム、形式、金額の算定方法などを基に難易度Bランク、Cランクを付けています。目標点数の目安は下記の通りになります。

目標点数の目安		
	【60分問題】	【30分問題】
B ランク	34点～44点	17点～22点
C ランク	30点～42点	13点～20点

Subject.5

解答の配点箇所の横に★印等を付けることにより取捨選択が一目瞭然！

- ★印…得点出来なくてもいい箇所
- ☆印…出来れば得点して欲しい箇所
- 無印…必ず得点して欲しい箇所

Point. I

効果的な使用方法

STEP.1 B・Cランクの利用方法

各問題にB、Cランクを付けています。難易度によりランク付けをしております。Bランク問題を習得した後に、Cランク問題を習得と順次解答するようにして下さい。

STEP.2 総合問題の解き方の利用方法

問題を解答する前に、まずは巻頭ページに総合問題の解き方の掲載をしていますので確認しましょう。

STEP.3 チェック欄の利用方法

CONTENTSにおいて問題毎に得点と時間の欄を3つ設けています。問題解答後に解答時間と点数を記入することにより計画的な学習、苦手なジャンル、弱点項目の把握が出来ます。

解答日や出来をメモしておこう

問題	ランク 時間	出 題 内 容	問題 ページ	解答 ページ	得点／時間		
					1回	2回	3回
1	B 30分	簿記一巡(損益勘定、残高勘定)	3	144			
2	B 30分	連続個別(組織再編会計、減損会計、退職給付会計 等)	9	151			

Point.2

解答用紙の利用方法

巻末に「解答用紙」がございますので、A4サイズにコピーしてお使いください。「解答用紙（A4サイズ）」は、資格の大原書籍販売サイト 大原ブックストア内の「解答用紙DLサービス」よりダウンロードすることも可能です。

<https://www.o-harabook.jp/>

資格の大原書籍販売サイト 大原ブックストア

Point.3

資格の大原書籍販売サイト 大原ブックストアをチェック！

解答用紙・チェックリストがダウンロードできる！

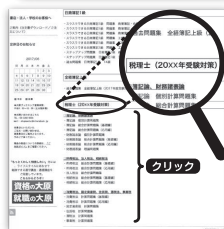
印刷して、解き直しやチェックリストにご利用いただけます。

※一部の教材を除く

1 トップページから「解答用紙DLサービス」
→「ダウンロードはこちら」をクリック



2 「税理士」からダウンロードする
書籍名をクリック



3 印刷



法令等の改正に対応！

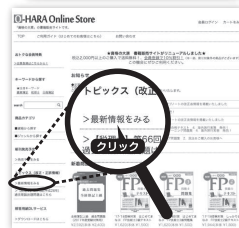
改正時には、大原ブックストアで本書掲載内容に関する法改正に伴う修正を公開します。

改正後の問題や解答をいち早くキャッチできます！！

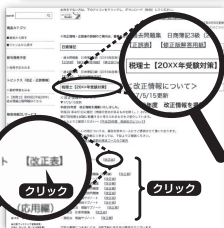
また、細心の注意を払って作成しておりますが、

万が一、訂正が生じた場合には正誤表も合わせて掲載いたします。

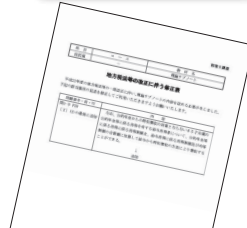
1 トップページから「トピックス(改正・正誤情報)」
→「最新情報を見る」をクリック



2 「税理士」の項目から書籍名を確認して、
【改正表】をクリック



3 印刷できます



問題	ランク 時間	出 題 内 容	問題 ページ	解答 ページ	得点／時間		
					1回	2回	3回
1	B 30分	簿記一巡(損益勘定、残高勘定)	3	144			
2	B 30分	連続個別(組織再編会計、減損会計、退職給付会計 等)	9	151			
3	B 60分	決算修正によるP/L、B/S作成	17	157			
4	C 30分	簿記一巡(損益勘定、残高勘定)	29	161			
5	B 30分	本支店会計(損益勘定、総合損益勘定)	33	166			
6	C 60分	決算修正による後T/B作成	37	169			
7	C 30分	簿記一巡(キャッシュ・フロー計算書)	47	174			
8	C 30分	連続個別(連結会計、商品売買)	55	178			
9	C 60分	決算修正による後T/B作成	63	182			
10	B 30分	連続個別(純資産会計、持分法 等)	71	187			
11	C 30分	連続個別(社債、商品売買、建設業会計 等)	77	190			
12	C 60分	決算修正による後T/B作成	83	194			
13	B 30分	連続個別(特殊商品売買、帳簿組織 等)	93	199			
14	C 30分	連続個別(在外支店、減損会計、リース会計 等)	99	202			
15	C 60分	誤謬修正問題	107	207			
16	B 30分	連続個別(固定資産、純資産会計、外貨建会計 等)	117	212			
17	B 30分	連続個別(圧縮記帳、組織再編会計、社債 等)	125	217			
18	C 60分	決算修正による後T/B作成	131	222			

問題編

●簿記論 総合計算問題集(応用編)

問題 1

問題 1

難易度 / B
標準時間：30分

甲株式会社(以下「当社」という。)の【資料1】前期末(X4年3月31日)の残高勘定、【資料2】当期(自X4年4月1日至X5年3月31日)の営業取引及び決算整理事項等、【資料3】当期末の損益勘定及び残高勘定は次のとおりである。これらの資料に基づいて、以下の設問に答えなさい。なお、問題文中に与えられている資料以外は考慮する必要はない。

また、資料の()に該当する勘定科目及び金額は各自推定しなさい。

設問1. 下記の【資料1】における前期末の残高勘定の ① ～ ③ に適当な金額を答案用紙の所定の解答欄に記入しなさい。

設問2. 当期首に行う開始手続に必要な仕訳の借方又は貸方合計金額を答案用紙の所定の解答欄に記入しなさい。なお、当社は準大陸式決算法を採用している。

設問3. 下記の【資料2】における営業取引及び決算整理事項等の A ～ C に適当な金額又は個数を答案用紙の所定の解答欄に記入しなさい。

設問4. 決算整理後残高試算表の繰越利益剰余金勘定の金額及び決算整理後残高試算表の借方又は貸方合計金額を答案用紙の所定の解答欄に記入しなさい。

設問5. 下記の【資料3】における当期末の損益勘定及び残高勘定の イ ～ へ に適当な金額を答案用紙の所定の解答欄に記入しなさい。

【資料1】 前期末の残高勘定

		残	高	(単位：千円)
現金預金	①	支払手形	4,320	
受取手形	5,840	買掛金	9,600	
売掛金	②	未払販売費	187	
繰越商品	9,600	貸倒引当金	342	
前払利息	③	長期借入金	15,000	
建物	15,000	減価償却累計額	()	
土地	20,000	資本金	()	
		資本準備金	2,000	
		利益準備金	1,700	
		任意積立金	4,080	
		繰越利益剰余金	6,950	
	()		()	

【資料2】 営業取引及び決算整理事項等

1. 現金預金に関する事項

- (1) 販売費、支払利息、建物に係る改修費用はすべて現金預金にて支払われている。
- (2) 当期(X4年6月26日)に開催された定時株主総会において、前期に係る剰余金の配当として、配当金の支払いが2,500千円及び利益準備金の積立て(会社法に規定する額を計上すること。)が決議され、配当金を支払った。
- (3) その他各自推定。

2. 商品売買(国内取引)に関する事項

- (1) 商品売買はすべて掛で行われており、手形の増加はすべて掛の決済によるものである。
- (2) 当期中における売掛金の代金回収額は49,488千円、買掛金の代金支払額は40,860千円である。
- (3) 売掛金48,672千円の回収として他社振出しの約束手形を受け取った。
- (4) 当期中に前期発生売掛金 A 千円(売掛金は前期においても貸倒引当金を設定している。)、当期発生売掛金160千円が回収不能となった。
- (5) 当期中に発生した受取手形を割引き、割引料80千円を差し引かれた残額1,520千円を当座預金口座に入金した。なお、この手形は期末現在未決済である。
- (6) 受取手形による現金預金の入金額は48,032千円(上記、割引手形を含む)であり、支払手形による現金預金の支出額は33,360千円である。
- (7) 当期における国内仕入は72,600千円であるが、このうち600千円を返品し、掛と相殺している。

3. 商品売買(国外取引)に関する事項

- (1) 当期末の残高勘定の買掛金の中にはユーロ建てのものが15千ユーロ含まれている。この内訳は、X5年2月1日の仕入れ分10千ユーロ(その時点での直物為替レートは1ユーロ=120円)と、X5年2月17日の仕入れ分5千ユーロ(その時点での直物為替レートは1ユーロ=120円)であり、いずれも期末現在未決済である。
- (2) X5年2月1日に仕入れた10千ユーロの買掛金の支払(決済日:X5年4月30日)に備えて、X5年3月1日に為替予約を行った。その時点の直物為替レートは1ユーロ=123円、先物為替レート(予約レート)は1ユーロ=121円であった。なお、為替予約は振当処理を行い、為替予約差額のうち直々差額については当期の損益として処理を行い、直先差額については月割計算により期間配分を行うこととする。また、これらの取引以外に外貨建取引は生じていない。
- (3) 決算日の直物為替レートは1ユーロ=124円である。

4. 期末商品に関する事項

- (1) 期末手許商品(原価@12千円)の帳簿数量は700個であり、実地数量は B 個である。
- (2) 当社は棚卸減耗損を売上原価に算入する処理を行っている。

5. 建物に関する事項

- (1) 当社は期首に取得後14年経過した建物(取得原価15,000千円、耐用年数30年、残存価額は取得原価の10%、定額法)について改修を行い、その対価として C 千円支払った。この結果、改修後の使用可能期間は36年となった。なお、使用可能期間の延長に対応する4,500千円を資本的支出として処理する。
- (2) 資本的支出部分については残存価額をゼロとして当初の耐用年数30年による定額法で減価償却を行う。

6. 長期借入金に関する事項

残高勘定の長期借入金は、全額X3年2月1日に利率：年(各自推算)％、利払日：2月1日及び8月1日、返済日：X7年1月31日の条件で借入れたものであるが、前期2月1日に利息の支払いを終えた後、当期8月1日の支払いより利率が改定され、元々の利率より0.1%金利が上昇した。なお、利率の改定は今回が初めてであり、支払利息はすべて当該借入金に係るものである(前期末において改定後の利率は不明であったものとする。)

7. 資本金に関する事項

期中において増資等に関する事実は一切ない。

8. 補足事項

受取手形及び売掛金の期末残高(前期末、当期末ともにすべて一般債権である。)に対して貸倒実績率法により貸倒引当金を設定する。会計処理は洗替法を採用している。なお、当期の貸倒実績率は2%とする。

【資料3】 当期末の損益勘定及び残高勘定

損			益			(単位：千円)
仕	入	75,240	売	上	100,000	
販	売	7,740	貸倒引当金戻入		102	
減	価	償				
修	繕	費				
		()				
貸倒引当金繰入		400				
貸	倒	損				
失		160				
支	払	利				
息		385				
手	形	売				
却	損	イ				
為	替	差				
損	益	ロ				
繰	越	利				
益	剰	余				
金		()				
		()				

残		高		(単位：千円)
現金預金	17,313	支払手形		4,440
受取手形	6,400	買掛金	二	
売掛金	()	未払販売費		176
繰越商品	()	()	()	
前払利息	130	貸倒引当金		400
建物	八	保証債務		30
土地	20,000	長期借入金		15,000
		減価償却累計額	ホ	
		資本金		25,000
		資本準備金		2,000
		利益準備金	ハ	
		任意積立金		4,080
		繰越利益剰余金	()	
	()		()	

解 答 編

問題 1

■解答■

設問 1.

- ① ★ 12,754 千円① ② ☆ 12,160 千円①
 ③ 125 千円②

設問 2.

75,791 千円①

設問 3.

- A 240 千円② B 680 個②
 C 8,100 千円②

設問 4. 繰越利益剰余金勘定の金額

4,200 千円②

決算整理後残高試算表の借方又は貸方合計金額

★ 173,378 千円①

設問 5.

- イ 110 千円② ロ 40 千円②
 ハ 19,500 千円② ニ ☆ 9,090 千円①
 ホ 6,900 千円② ヘ 1,950 千円②

採点基準

②点×10個=20点

①点×5個=5点

計 25点

●解説●

仕訳の単位は千円とする。

1. 開始手続

(1) 開始仕訳(準大陸式)

(現金預金)	12,754	(支払手形)	4,320
(受取手形)	5,840	(買掛金)	9,600
(売掛金)	12,160	(未払販売費)	187
(繰越商品)	9,600	(貸倒引当金)	342
(前払利息)	125	(長期借入金)	15,000
(建物)	15,000	(減価償却累計額)	6,300
(土地)	20,000	(資本金)	25,000
		(資本準備金)	2,000
		(利益準備金)	1,700
		(任意積立金)	4,080
		(繰越利益剰余金)	6,950

∴ 仕訳合計額 75,479

※1 下記7. ※6 参照

※2 下記3. (1) ※3 参照

※3 下記6. (3) 参照

※4 下記5. (3) 参照

※5 【資料3】当期末残高勘定・資本金より

(2) 再振替仕訳

(未払販売費)	187	(販売費)	187
(支払利息)	125	(前払利息)	125

∴ 仕訳合計額 312

(3) 75,479 + 312 = 75,791 (設問2. の金額)

2. 現金預金に関する事項(支払利息、建物に係る改修費用以外)

(1) 販売費

① 期首再振替仕訳

(未払販売費)	187	(販売費)	187
---------	-----	-------	-----

② 販売費の支払い

(販売費)	7,751	(現金預金)	7,751
-------	-------	--------	-------

③ 販売費の見越

(販売費)	176	(未払販売費)	176
-------	-----	---------	-----

④ 販売費勘定

販売費			
現金預金	再振替		
(7,751)		187	
見越	損益		
176			7,740

(2) 剰余金の配当及び配当金の支払い

(繰越利益剰余金)	2,750	(利益準備金)	250
		(未払配当金)	2,500
(未払配当金)	2,500	(現金預金)	2,500

$$\text{※① } 2,500 \times \frac{1}{10} = 250$$

$$\text{② } 25,000 \times \frac{1}{4} - (2,000 + 1,700) = 2,550$$

$$\text{③ } \text{①} < \text{②} \therefore 250$$

3. 商品売買に関する事項

(1) 売掛金勘定

売掛金	
期首	現金預金
(12,160)	49,488
売上	受取手形
	48,672
	前期発生貸倒
	240
100,000	当期発生貸倒
	160
	期末
	13,600

※1 下記(2)参照

$$\text{※2 } \frac{\text{期末貸倒引当金}}{400} \div 2\% - \frac{\text{期末受取手形}}{6,400} = 13,600$$

※3 貸借差額(設問1. ② の金額)

(2) 貸倒引当金勘定

貸倒引当金	
前期発生貸倒	期首
240	342
貸倒引当金戻入	
102	
期末	貸倒引当金繰入
400	400

$$\text{※ } \frac{\text{期首貸倒引当金}}{342} - \frac{\text{貸倒引当金戻入}}{102} = 240$$

(設問3. A の金額)

(3) 受取手形

① 受取手形勘定

受取手形	
期首	決済額 5,840
	※1 46,512
売掛金	割引手形 48,672
	※2 1,600
	期末 6,400

$$\text{※1} \quad \text{現金預金入金額} - \text{手形割引入金額} = 48,032 - 1,520 = 46,512$$

$$\text{※2} \quad \text{手形割引入金額} - \text{割引料} = 1,520 - 80 = 1,600$$

② 手形の割引

$$\text{(現金預金)} \quad 1,520 \quad \text{(受取手形)} \quad \text{※1} \quad 1,600$$

$$\text{(手形売却損)} \quad 110 \quad \text{(保証債務)} \quad 30$$

※1 上記①参照

※2 貸借差額(設問5. イ の金額)

(4) 買掛金

① 国内取引

$$\text{(仕入)} \quad 72,600 \quad \text{(買掛金)} \quad 72,600$$

② 国内返品

$$\text{(買掛金)} \quad 600 \quad \text{(仕入)} \quad 600$$

③ 国外取引(X5年2月1日分)

(イ) 仕入時

$$\text{(仕入)} \quad 1,200 \quad \text{(買掛金)} \quad \text{※} \quad 1,200$$

$$\text{※} \quad 10 \text{千ユーロ} \times \frac{\text{取引日レート}}{120 \text{円}} = 1,200$$

(ロ) 為替予約時

$$\text{(為替差損益)} \quad 30 \quad \text{(買掛金)} \quad \text{※1} \quad 30$$

$$\text{(買掛金)} \quad \text{※2} \quad 20 \quad \text{(前受収益)} \quad 20$$

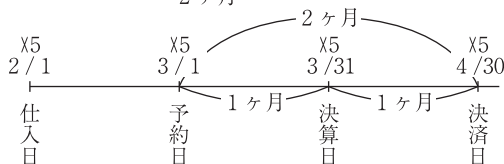
$$\text{※1} \quad \left(\frac{\text{予約日レート}}{123 \text{円}} - \frac{\text{取引日レート}}{120 \text{円}} \right) \times 10 \text{千ユーロ} = 30$$

$$\text{※2} \quad \left(\frac{\text{予約日レート}}{123 \text{円}} - \frac{\text{予約レート}}{121 \text{円}} \right) \times 10 \text{千ユーロ} = 20$$

(ハ) 決算整理

$$\text{(前受収益)} \quad 10 \quad \text{(為替差損益)} \quad \text{※} \quad 10$$

$$\text{※} \quad \frac{\text{上記(ロ)※2}}{20} \times \frac{1 \text{ヶ月}}{2 \text{ヶ月}} = 10$$



④ 国外取引(X5年2月17日分)

(イ) 仕入時

$$\text{(仕入)} \quad 600 \quad \text{(買掛金)} \quad \text{※} \quad 600$$

$$\text{※} \quad 5 \text{千ユーロ} \times \frac{\text{取引日レート}}{120 \text{円}} = 600$$

(ロ) 決算整理

$$\text{(為替差損益)} \quad 20 \quad \text{(買掛金)} \quad \text{※} \quad 20$$

$$\text{※} \quad \left(\frac{\text{決算日レート}}{124 \text{円}} - \frac{\text{取引日レート}}{120 \text{円}} \right) \times 5 \text{千ユーロ} = 20$$

⑤ 買掛金勘定

買掛金	
現金預金	期首
40,860	9,600
支払手形	
※1 33,480	国内仕入
返品	72,600
600	
為替予約(直先差額)	国外仕入
20	※2 1,800
	為替予約(直々差額)
期末	30
※3 (9,090)	期末換算(2/17仕入)
	20

※1 下記(6)支払手形勘定参照

$$\text{※2} \quad \frac{\text{上記③(イ)}}{1,200} + \frac{\text{上記④(イ)}}{600} = 1,800$$

※3 貸借差額(設問5. 二 の金額)

(5) 為替差損益勘定

為替差損益	
為替予約時	決算整理(直先差額)
※1 30	※2 10
決算整理(期末換算)	損益
※3 20	※4 (40)

※1 上記(4)③(ロ)参照

※2 上記(4)③(ハ)参照

※3 上記(4)④(ロ)参照

※4 貸借差額(設問5. ロ の金額)

(6) 支払手形勘定

支払手形	
現金預金	期首
33,360	4,320
期末	買掛金
4,440	(33,480)

4. 期末商品に関する事項

(1) 売上原価の算定

(仕 入)	9,600	(繰越商品)	9,600
	※1		
(繰越商品)	8,400	(仕 入)	8,400
	※2		
(棚卸減耗損)	240	(繰越商品)	240
(仕 入)	240	(棚卸減耗損)	240

※1 700個×@12=8,400

損益勘定仕入 下記(2)参照

※2 75,240 - 75,000 = 240

(2) 商品BOX

商品BOX	
期首	9,600
国内仕入	※1 72,000
国外仕入	※2 1,800
期末	8,400

※1 72,600 - 600 = 72,000

上記3.(4)③(イ) 上記3.(4)④(イ)

※2 1,200 + 600 = 1,800

(3) 期末実地数量(設問3. B の個数)

① 上記(1)※2 棚卸減耗数量
240 ÷ @12 = 20個

② 期末帳簿数量
700個 - 20個 = 680個

5. 建物に関する事項

(1) 改修費用(資本的支出・収益的支出)

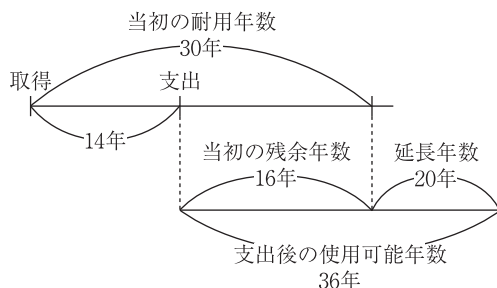
(建 物)	4,500	(現金預金)	※ 8,100
(修 繕 費)	貸借差額 3,600		

※ 改修費用として支出した金額を x とおく。

$$x \times \frac{36 - (30 - 14)}{36} = 4,500$$

$x = 8,100$ (設問3. C の金額)

(参考)



(2) 減価償却

(減価償却費)	※ 600	(減価償却累計額)	600
---------	-------	-----------	-----

※ 【資料3】当期末損益勘定より

(3) 前期末残高勘定の減価償却累計額の金額

※ 前期末までの経過年数
 $450 \times 14 = 6,300$

※ $15,000 \times 0.9 \times \frac{1}{30} = 450$

(4) 当期末残高勘定の建物の金額

資本的支出
 $15,000 + 4,500 = 19,500$

(設問5. ハ の金額)

(5) 当期末残高勘定の減価償却累計額の金額

上記(3) 上記(2)
 $6,300 + 600 = 6,900$ (設問5. ホ の金額)

6. 長期借入金に関する事項

(1) 当期末の支払利息の繰延

(前払利息)	※ 130	(支払利息)	130
--------	-------	--------	-----

※ 【資料3】当期末残高勘定より

(2) 改定前利率の算定

① 改定後の利率を x とおく。

$$15,000 \times x \% \times \frac{4 \text{ヶ月}}{12 \text{ヶ月}} = 130$$

$$x = 2.6\%$$

② $2.6\% - \text{上昇ポイント} 0.1\% = 2.5\%$

(3) 前期末の支払利息の繰延

(前払利息)	※ 125	(支払利息)	125
--------	-------	--------	-----

※ $15,000 \times 2.5\% \times \frac{4 \text{ヶ月}}{12 \text{ヶ月}} = 125$

(設問1. ③ の金額)

(4) 期首再振替仕訳

(支払利息)	125	(前払利息)	125
--------	-----	--------	-----

(5) 利息の支払い

(支払利息)	※ 390	(現金預金)	390
--------	-------	--------	-----

※ 下記(6)参照

(6) 支払利息勘定

支払利息	
再振替	※ 125
繰延	130
現金預金	(390)
損益	385

※ 上記(3)参照

7. 現金預金勘定

現金預金	
期首	販売費 ※1 7,751
※6 (12,754)	未払配当金 ※2 2,500
売掛金	買掛金
49,488	40,860
	支払手形 33,360
受取手形	改修費 ※4 8,100
※3 46,512	支払利息 ※5 390
割引手形	期末 17,313
1,520	

※1 上記2.(1)②参照

※2 上記2.(2)参照

※3 上記3.(3)①※1参照

※ 4 上記 5.(1)参照

※5 上記6.(5)参照

※6 貸借差額(設問1. ① の金額)

8. その他の事項

(1) 利益準備金

$$\begin{array}{rcl} \text{前期末残高勘定} & \text{上記 2. (2)※} & \\ 1,700 & + & 250 \\ & & = 1,950 \end{array}$$

(設問 5. △ の金額)

(2) 繰越利益剰余金

① 繰越利益剰余金勘定

繰越利益剰余金		
剰余金の配当 2,750	期首 6,950	前・後 T/B ※ 4,200
期末 16,027	損益 11,827	

※ $\frac{\text{期首残高}}{6,950} - \frac{\text{剰余金の配当}}{2,750} = 4,200$

(設問 4. 決算整理後残高試算表の金額)

なお、繰越利益剰余金勘定への当期純利益に係る振替は決算振替で行われるため、決算整理前残高試算表と決算整理後残高試算表の繰越利益剰余金勘定の金額は同額である。

② 利益振替仕訳

(損	益)	11,827	(繰越利益金)	11,827 [*]
----	----	--------	---------	---------------------

※ 下記(参考2)参照

③ 残高振替仕訳(繰越利益剰余金勘定のみ)

(繰越利益剰余金) 16,027[※] (残高) 16,027

※ 上記①参照

(3) 決算整理後残高試算表の借方又は貸方合計金額

決算整理後残高試算表の貸方合計額は、当期末損益勘定の貸方合計額に当期末残高勘定の貸方合計額のうち繰越利益剰余金以外の項目を加算し、この合計額に決算整理前・後の残高試算表の繰越利益剰余金勘定の金額を加算した額である。

$$\begin{array}{rcl} \text{損益勘定合計額} & \text{残高勘定合計額} & \text{残高勘定繰越利益剰余金} \\ 100,102 & + (85,103 & - 16,027) \\ \text{前・後T/B繰越利益剰余金} & & \\ + 4,200 & & = 173,378 \end{array}$$

(設問 4. 決算整理後残高試算表の借方又は貸方合計金額)

(参考1) 前期末の残高勘定

残		高		(単位：千円)
現金預金	12,754	支払手形		4,320
受取手形	5,840	買掛金		9,600
売掛金	12,160	未払販売費		187
繰越商品	9,600	貸倒引当金		342
前払利息	125	長期借入金		15,000
建物	15,000	減価償却累計額	(	6,300)
土地	20,000	資本金	(	25,000)
		資本準備金		2,000
		利益準備金		1,700
		任意積立金		4,080
		繰越利益剰余金		6,950
	(75,479)			(75,479)

(参考2) 当期末の損益勘定及び残高勘定

損		益		(単位：千円)
仕入	75,240	売上		100,000
販売費	7,740	貸倒引当金戻入		102
減価償却費	600			
修繕費	(3,600)			
貸倒引当金繰入	400			
貸倒損失	160			
支払利息	385			
手形売却損	110			
為替差損益	40			
繰越利益剰余金	(11,827)			
	(100,102)			(100,102)

		残	高	(単位：千円)	
現金預金		17,313	支払手形		4,440
受取手形		6,400	買掛金		9,090
売掛金	(13,600)		未払販売費		176
繰越商品	(8,160)		(前受収益)	(10)	
前払利息		130	貸倒引当金		400
建物	19,500		保証債務		30
土地	20,000		長期借入金		15,000
			減価償却累計額		6,900
			資本金		25,000
			資本準備金		2,000
			利益準備金		1,950
			任意積立金		4,080
			繰越利益剰余金	(16,027)	
		(85,103)		(85,103)	

解 答 用 紙

※A 4 サイズにコピーしてお使いください

「解答用紙（A 4 サイズ）」は、資格の大原書籍販売サイト
大原ブックストア内の「解答用紙DLサービス」よりダウン
ロードすることも可能です。

<https://www.o-harabook.jp/>
資格の大原書籍販売サイト 大原ブックストア

問題 1

評 点	所要時間	フリガナ	
／25点	／30分	氏 名	

設問 1.

①

千円

②

千円

③

千円

設問 2.

千円

設問 3.

A

千円

B

個

C

千円

設問 4. 繰越利益剰余金勘定の金額

千円

決算整理後残高試算表の借方又は貸方合計金額

千円

設問 5.

イ

千円

ロ

千円

ハ

千円

ニ

千円

ホ

千円

ヘ

千円